

2025（令和7）年度

東北大学法科大学院入学試験 一般選抜（前期）・法曹基礎課程特別選抜（開放型）

試験科目：民事法（民法）

【第1問】（解答は5行程度で行いなさい。）

相手方と通じてした虚偽の意思表示は無効とされている（民法94条1項）のに対し、詐欺又は強迫による意思表示は取り消すことができるとされている（同法96条1項）。このような効果の違いが生じるのはなぜか、意思表示の構造に照らして説明しなさい。

【第2問】（解答は10行程度で行いなさい。）

Aは、Bが所有する甲土地を建物所有目的で賃借し、甲の上に乙建物を建てて所有していた。次いで、Cは、Aに金銭を貸し付け、担保として乙に抵当権の設定を受け、その旨の登記が経由された。その後、この抵当権が実行され、Dが乙を買い受けた。甲についてのAの賃借権は、AとDとの間で、Dに移転するか説明しなさい。なお、Bとの関係は考慮しなくてよい。

【第3問】（解答は合わせて10行程度で行いなさい。）

Aは、Bに対して、甲債権100万円を有し、他方、Bは、Cに対して、乙債権300万円を有しており、いずれも弁済期が到来している。Bは、乙以外にはめぼしい財産がない状態にあり、Cに対して乙の弁済を請求することもなく放置している。そこで、Aは、乙を代位行使しようと考えている。

①Aは、乙の全額を代位行使できるか。また、②Aは、Cに対し、その支払をAに対してすることを求めることができるか。①及び②について、根拠となる条文を挙げ、「責任財産保全の目的」及び「債権の簡易優先回収機能」という語句を用いて説明しなさい。

【第4問】（解答は合わせて7行程度で行いなさい。）

AB夫婦には、5歳の子Cがいる。Aは、しつけと称して、Cをたたき暴行を加えたり、冬でも一晩中ベランダに放置して部屋に入れなかったり、夕食を与えなかったりしている。Bは、Aに嫌われたくないため、Aのこれらの行為について見て見ぬふりをしている。

①Cに対するA及びBそれぞれの親権の行使について、民法上どのような制限が考えられるか説明しなさい。また、②Cに対して親権を行使する者がいなくなった場合に、民法上どのような対応が予定されているか説明しなさい。なお、①と②は独立した問題である。